

### Ⅲ教育委員会点検・評価書

#### 1 教育委員の活動

## 1 教育委員の活動

### (1)概要

浦添市教育委員会は5人の委員で組織されています。

委員は、毎月1回の定例会と必要に応じ、臨時会へ出席し、付議された案件について、審議等を行っています。

また、学校や地域行事等への積極的参加や、教育委員会連合会を通して、他市町村教育委員会の情報収集教育行政に関する諸問題を研究討議し、浦添市の教育行政の発展のために努めています。

### (2)教育委員名簿

(平成26年3月31日現在)

| 役 職 名    | 氏 名     | 任 期                    |
|----------|---------|------------------------|
| 委員長      | 仲宗根 加代子 | 平成22年10月1日～平成26年9月30日  |
| 委員長職務代理者 | 平 良 寛 吉 | 平成23年4月1日～平成27年3月31日   |
| 委員       | 多 喜 和 彦 | 平成24年10月1日～平成28年9月30日  |
| 委員       | 与 儀 啓 子 | 平成25年 4月20日～平成29年4月19日 |
| 教育長      | 池 原 寛 安 | 平成25年 5月31日～平成29年5月30日 |

### (3)教育委員の活動状況

|   | 内 容               | 件 数 |
|---|-------------------|-----|
| 1 | 教育委員会の会議(定例会・臨時会) | 23  |
| 2 | 教育委員の資質向上(研修会等)   | 18  |
| 3 | 学校訪問              | 21  |
| 4 | 学校行事(儀式・体育行事等)    | 76  |
| 5 | 各種行事(大会等)         | 64  |

### (4) 教育委員会の会議

- ① 議事は事務局から詳しい説明のもと慎重審議がなされ、議案によっては継続審議とし議論を深めた。
- ② 教育委員会と事務局との連携は、おおむねスムーズである。議案や資料の事前通知も努力の姿勢が伺えた。

- 課題 ① 議案や資料を一部の委員にのみ配布するということがあった。議案や資料は、委員会開催までに調査研究が可能な日程で事前配布をしていただきたい。
- ② 委員間の連絡調整不足が原因で結果的に議会の混乱を招いたことは大きな責任を感じる場所である。報告・連絡・相談の在り方を密にしたい。

## (5) 教育委員の相互連携と資質向上

### ① 沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会（石垣市民会館・その他）

- ① 講演 豊重哲郎（鹿屋市串良町柳谷自治公民館 館長）
- ② 演題 「やる気を起こせば奇跡は起きる」
- ③ 分科会  
第一分科会「学校における労働安全衛生管理体制について」  
第二分科会「学力向上のために教育委員会・学校現場はどうあるべきか」  
第三分科会「地域ぐるみの子育てのあり方について」

- 成果 ① 講演では「住民自治」「自主財源確保」「会費0円」「人を本気にさせる」「教育と文化の集落づくり」「寺子屋づくり」等、地域づくりの本道が学べた。
- ② 学力先進地域へ視察研修のため各学校から1名の教師を派遣したり、児童生徒を授業体験させ「学び」を経験させるために派遣する市町村がある。
- ③ 一括交付金で退職教員による無料塾を開いたり、学習支援員を派遣したり、電子黒板を導入したり等の報告があった。

- 感想 ① 豊重氏は55歳で「やねだん」の公民館長となり、多くの人の信頼を得て今日まで続いている。行政に頼らず地域でやれることは地域でやるという自治の発想から人々に感動を与えることで仲間意識を作り地域を再生させたという。行政に頼らない地域再建は、学ぶところが多く迫力ある講演であった。
- ② 学力向上は、学校では「わかる授業の構築」家庭では「基本的生活習慣の確立」地域では「挨拶の声掛け運動」等、連携して取り組む必要がある。

### ② 第10回九州地区教育委員研修大会（鹿児島県城山観光ホテル 委員2名参加）

- ① 講演 桐野作人（歴史作家）
- ② 演題 「明治維新の英傑を育てた薩摩の気風」
- ③ パネルディスカッション「いじめ・体罰について」
- 感想 ① 本研修会へは、他市町村のように計画的に毎回参加することが望ましい。
- ② 薩摩の自治教育と寛容の精神についての教育、学社融合・地域人材を活用した教育の展開等、本市においても模索できる内容である。
- ③ いじめ・体罰については絶対あってはならないという強い決意で命の教育や人権教育にしっかり結びつける必要性を感じた。
- ③ 那覇地区市町村教育委員会連合会第1回総会
  - ① 平成24年度の決算、25年度の予算承認、新役員の選出がなされた。本会は、市町村教育委員会の交流・親睦を図るよい機会である。今後は互いの現状報告並びに共通するテーマを設定し研修を深める必要がある。
- ④ 沖縄県教育委員会連合会総会（那覇市民会館）
  - ① 講演 宮城能彦（沖縄大学教授）
  - ② 演題 「大学から見た学校、地域との連携を考える」
  - 成果 ① 大学の機能は「教員養成」「教育の研究」「地域研究」「地域貢献」である。
  - ② 小中高校の学力低下は大学生の二極化につながっている「学力」の保証が課題である。
  - ③ 「地域力」が子供を変える。学校に地域を活かす連携の強化を図る。
  - 感想 ① 地域連携は勿論、大学との連携の強化も早期の実現を図りたい。石垣での講演会で講師の話した「地域づくり」が、今回も重ねて話されその意義を強く感じた。
- ⑤ 第2回那覇地区市町村教育委員会（那覇市役所）
 

本会は、那覇・浦添・久米島・南大東・北大東の五つの地区で構成されている。第2回総会は台風のため離島からの参加が少なかった。

- 成果 ① 二学期制、三学期制の市町村がある。二学期制を三学期制に戻す他市町村があるが慎重を期さないといけないという報告があった。
- 感想 ① なぜ二学期制になったかの経緯に戻り、二学期制を活かした学

校行事や学習指導等の在り方を推進する必要を感じた。

⑥ 平成 25 年度 市町村教育委員会・教育長研修会（沖縄県庁）

県教育委員長宮城奈々氏による挨拶、諸見里教育長による学力問題による講演があった。

① 内容 学力向上

② 方策 無回答・解答率 30%未満の児童生徒のケアのための補習の在り方

成果 ① 学力向上について具体的に示され児童生徒に即した取り組みができる。

② この方策で、二年以内に最下位から 30 位内を目指せる。

感想 ① 学力向上について具体的に示され学校への指導助言がきめ細かくできる。

② スポーツ文化面は全く引けをとらない。示された方策をやれば、きっと実現できると強く感じた。

⑦ 第 3 回那覇地区市町村教育委員会（那覇市役所）

本会のマンネリ化と形骸化を感じ、何らかの工夫が必要であることを痛感した。

（6）学校訪問

① 合同訪問

10 月から 11 月にかけてテーマを設け、小中学校の訪問が実施された。校長・教頭を初め多くの先生方、事務職員に貴重な時間をさいて対応して頂いた。短い時間ではあるが各クラスの学習の様子や指導の様子を見ることができテーマに沿った説明も受けることができた。学校訪問は、児童生徒の学習状況、先生方の授業改善・工夫等を拝見し各学校の素晴らしさを確認し、先生方を激励することにある。

成果 ① 「現場主義」の実践で校長や教頭の経営理念、先生方の授業の工夫・改善、幼児・児童・生徒の活動状況、学校の要望も把握でき激励できた。

② 学校訪問のテーマを「キャリア教育の取組」としたので幼児・児童・生徒に夢と希望のある授業となった。

教科活動や総合学習、地域人材を活用してキャリア教育に取り組んでおり、自らの生き方を考え、主体的に進路選択する力を育み、児童生徒に夢と希望を持たせるキャリア教育が実践されている。

- ⑤ 地域教材、電子黒板等の視聴覚機器の活用などを取り入れた授業実践がなされている。各学校とも児童生徒が授業に集中している様子を目の当たりにした。
- 感想 ① 教室の清掃がよくなされ清々しい中で勉強に励んでいる。教師のきめ細やかな授業、児童の興味関心を高める授業の工夫が見られた。
- ② 各教科における指導案で人間形成能力、情報活用能力、意思決定力、将来設計能力などを育成するための授業実践がなされておりキャリア教育の理解を深めることができた。
- ③ 教育委員の感想や両部長の指導助言で、学校の良さを確認するとともに施設設備等に対する学校からの要望も理解できた。学校訪問は、現場の声や問題点等も聴くことができ有意義なものと考えた。
- 課題 ① 学校訪問で知りえた内容や要望を教育委員会の事業に速やかに生かす工夫と努力が求められる。

## ② 指定研究発表会（神森幼稚園、前田小学校）

- 成果 ① 練られた授業実践は、研究への取組体制の現れであり、幼・小ともに教師の力量の高さが伺え、指定研修の成果の大きさにその必要性を感じた。
- ② 全職員の研究を深めてきた成果が、公開授業や実践報告書にまとめられた。地に足の着いた研究は、参観者も得るものが大きくともに高めてくれる。
- ③ 小学校は「書く活動」を通して考える力や応用する力をつけることをめざした 2 年間の研究成果を発表した。幼稚園では「環境の工夫」を通して主体的に活動する幼児の育成を目指した。ともにその効果は大である。
- 感想 ① 問題解決的学習で視聴覚機器を活用し算数に書く活動を取り入れて、授業改善が図られ活用する能力が高まっており、先生方の指導力に感銘した。
- ② 幼稚園は遊びを通して運動能力を援助する教師の工夫がみられ感動した。
- 課題 ① 教職員の転勤で素晴らしい研究実績を他校にも広め、さらに転入教員にもその研究の成果を伝え、継続発展させる方策をどう展開するかが大事である。
- ② 指定研究は限られた園・学校なので、市内の園・学校からの参加

人数を増やし、研究の成果を一人でも多くの方が共有出来るようにしたい。

- ㊦ 教師の研究成果は、即子供に及ぶことなので保護者の参観も増やしたい。

### ③ 学力向上対策実践報告会

成果 ㊦ 各学校が特色を生かし、児童生徒や地域の実態に即した取り組みができる。

- ㊧ 授業参観日と報告会を重ねる工夫をした効果が大で参観者も多く喜ばしい。

課題 ㊦ 学校ごとに実践報告するので、報告回数が増えるため各学校の報告会への教師の参加が困難になる。自校の研究成果を確認し他校の優れた研究成果を共有するために、それぞれの学校の「学力向上に向けて工夫した点」等という観点を紹介できる場としての研修会が望まれる。

## (7) 学校行事への参加（儀式：入園、入学・卒園、卒業式：体育行事等）

### ① 儀式的行事（入園、入学・卒園、卒業式・周年行事）

感想 ㊦ 幼児・児童・生徒にとって大きな節目となり大切な行事にふさわしく、会場の花や舞台を初め細かい所まできちんと配慮され、祝福の意が強く感じられた。

- ㊧ 参加者全員が祝福の喜びに満ち溢れている。夢と希望のある行事になった。

### ② 体育的行事（運動会）

感想 ㊦ 一人ひとりが主役となり、たくましく成長したことが伺える。

- ㊧ 地域と学校、保護者の連携の図れる行事となっている。

### ③ 旅行・集団宿泊的行事（セカンドスクール）

市独自の特色ある本事業は、自然・農漁業・冒険等の体験活動で野外キャンプや民泊を通して進められる。勤労生産・奉仕的行事のねらいを兼ね備えた成果がみられ、子どもたちにとっては2泊3日で培われる諸々の力が、たくましく生きる力につながるものとなる。委員と事務局員で激励のため東村へ行き本事業の成果が確認できた。

## (8) 各種行事、大会への参加

どの行事も綿密に計画され内容や運営ともによい。今回は次の⑬につ

いて述べる。

- ① 浦添市スーパーコミュニケーションスクール1期生入学式  
英語と中国語を学びコミュニケーション能力を養うことが目的の本市独自の事業である。てだこ市民大学とともに将来、浦添を担う人材が育つことが楽しみだ。
- ② てだこ市民大学6期生入学式  
年齢に関係なく学ぶ意欲のある入学生の、希望に満ちた顔に接したくましさを感じた。卒業生が各地で大活躍である。定数を満たす方法を模索しないと、少ない人数ではせっかくの学びのチャンスが惜しまれるところである。
- ③ 市PTA連合会定期総会  
学校・家庭・地域の連携、各単位PTA相互の連携・強化によって、子どもたちの健全育成に尽力している。
- ④ 英語教育発表会  
国際化の中で英語教育の果たす役割は大きい。先生方の幼・小学校から英語教育の成果が中学英語へ大きく寄与している。英会話力が上達していることが発表会を通してつかめた。さらに学びを深め、将来国際人として羽ばたいて貰いたい。
- ⑤ 分館フェスタ  
輝きに満ちた眼で舞台に立つ姿に共感と感動が大なるものがあつた。この輝きをもっと多くの子に与えることが児童生徒の健全育成につながると感じた。
- ⑥ 浦添市社会教育研究大会  
「どう考える子供の学力～根っこを育てる教育～」のテーマで西本裕輝琉球大学准教授のコーディネートするシンポジウムである。「保護者の行動は子どもの学力への影響が大きい。親がどれだけ子供に係れるかが大切」「十分な睡眠時間を確保し朝食を共にとり親子の交流ができている子どもほど学力が高い」「車で学校へ送ることが寝坊しても送ってもらえるという甘えを生み生活リズムを乱す。」「過剰な部活動」「6時30分帰宅で生活リズムの確立」等々、強く心に響く指摘があつた。
- ⑦ 学校給食交流会  
神森小学校の児童と交流会をもって沖縄の食文化をともに味わう機会となった。
- ⑧ 第36回てだこまつり  
多くの市民の参加に市民パワーを感じた。企画・演出ともに素晴らし



く楽しい2日間であった。

⑨ 消防出初式

消防署員及び消防団のキビキビした態度・訓練に感動した。

⑩ 平成26年浦添市成人式

司会進行を初め舞台の席にも新成人が揃い、新成人主体の式典で進められ、式典後の舞台も若々しく明るいものとなって門出にふさわしい。子ども青少年課ををはじめ関係諸団体による細心の心配りが伝わった。新成人の主体的に係った式典は大賛成である。今後は、新成人の実行委員の数を増やしポスターや呼びかけ等も実行委員会名で行う事で、外での騒ぎの解消にもつながるのではないか。

⑪ 委員会表彰式

教育の日に多くの児童生徒・市民の活躍を激励する表彰は、やる気と夢を与えている。今回は個人3、団体1の市民表彰、善行児童生徒31人、団体17を表彰し激励することができた。

⑫ てだこ市民大学第4期卒業研究発表会

年々研究内容が充実し創意工夫に満ちあふれ目を見張るものがある。その研究を活かすためのしっかりしたネットワークづくりが求められる。

⑬ 教育研究所成果報告会・修了式

現場を離れ研究に没頭できる時間を有効に活用し実践に即、活かされる報告であった、関係学年、関係教科担任へもっと積極的な案内をかけて聞いてもらうことも研修の広がりにつながると思う。

## (9) その他の意見

① 11月24日に港川中学校区津波防災訓練が行われ、牧港小学校は伊祖の高台へ避難訓練した。この行事は、浦添市立中央公民館が「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム地域の防災拠点形成支援事業～防災に強い地域づくり」で、文部科学省の支援を受けてやった事業の一部で大変有意義であった。

② 25年度末に元学校長に対し県教育委員会より処分が行われた。この件では、24~25年度現時点で学校長への指導責任者並びに、当該事務職員の任用管理責任者を厳重注意処分とした。しかし当該市費事務職員の在籍は21~23年度であり、その当時の管理責任者の地位にあった者が適正な指導助言管理がなされていれば、本件のような被害はなく、被害額も少なくすることができたものと考えられる。それらが検討できなかったことは残念である。

- ③ 給食費等学校内の現金取扱についての規則等の迅速な整備が求められる。

#### まとめ

- ・ 教育委員会の形骸化が言われ、教育委員会改革にもつながった。委員になって感じたことは、浦添市の教育委員会は、しっかり審議し活動しているということである。
- ・ 教育委員の県外研修が数年ぶりに実現した。教育委員の資質向上のため年間1名でも毎回参加できるような計画的な実施が望ましい。
- ・ 他市町村から浦添市に來られた教育関係者の多くが「浦添は教育を大事にしている。」と高く評価する。これは教育予算の比率に現れている。未来の浦添市を担う、幼児児童生徒に代わり関係部局と市議会へ感謝し敬意を表する。
- ・ 市P連や市民会議、青少協、自治会等、各関連機関・団体が児童生徒を取り巻く環境づくりへのご尽力に敬意を表する。「Go一家運動」や「居酒屋へ子供を連れて行かない運動」「愛の声かけ運動」「10時に親が携帯を預かる運動」等が学力向上の底上げに大きく寄与したと感謝の念でいっぱいである。
- ・ 各学校は、学力向上と生徒指導の課題が大きいと感じた。特に中学校への早急な対策が望まれる。スクールカウンセラーや心の教室、学習支援員の強化に向け退職教員への働きかけが必要だと感じた。
- ・ 様々な課題に翻弄され教師の精神的負担が増大している。一人ひとりの肩に負わされている課題を組織的に解決する仕組みの強化は考えられないものだろうか。
- ・ 琉大の西村先生のご指摘にもあった通り「早ね早起き朝ごはん」が大事である。学齡児童になってからでは遅いので、保健関係課、子育て関係課とも連携し市民への広報活動が求められる。
- ・ 様々な大会や研修会、発表会、講演会等へ参加して思うことは、主催者等関係者の熱意と綿密な計画、素晴らしい内容で心から敬意を表するところである。ところが会場の参加者の少なさに驚くことが多い。内容がよいだけに心から残念に思う。広報活動でなんとかならないものか、良いアイディアはないものかいつも考えさせられる。
- ・ 議会・執行部の懇親会で議員の皆さまや市長・副市長・執行部の皆さまと浦添市の教育等親しく意見交換ができたことは有意義であった。
- ・ 点検評価した内容への対応状況の把握の進め方が検討課題である。